

平成29年度 第1回男鹿市総合教育会議議事録

1 日時 平成29年11月9日(木) 15:01～16:05

2 場所 男鹿市役所3階第一会議室

3 出席者 男鹿市 市長 菅原 広二
男鹿市教育委員会 教育長 鈴木 雅彦
委員 目黒 恵子
委員 角崎 紘二
委員 吉田 貴美子
委員 安田 一彦

4 意見交換

(1) 市長の教育への思いについて

5 会議録

●事務局

ただ今から平成29年度第1回男鹿市総合教育会議を開会いたします。
初めに、菅原市長よりあいさつをお願いいたします。

●市長

皆様こんにちは。お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

私が市長になって初めて皆さんと一堂に会して、このような機会を作っていただき非常に嬉しいです。今日は忌憚のないお話を聞かせていただければありがたいと思います。

昨日、民生委員の集まりがありました。私にとっては非常に新鮮でした。130人のうち100人くらいが集まりましたが、みんなが一生懸命なことに非常に刺激を受けました。会議だけでなく懇親会にも顔を出してきましたが、何が良いかと言うと、地域のことを一生懸命やってくれている方々が、こんなに多いと言うことに感激しました。

私はいつも人生は利他業だと、人のためや誰かのために働くことによって、最高のパワーを発揮できるし、人を喜ばせることが人生で一番の喜びだと思っていますが、自分はなかなかできない。そうしたことを実践している方々にお会いして非常に嬉しかった。

そうしたことで、教育に関して特に一生懸命やってくれている皆さん方には本当に敬意と感謝を申し上げます。

私は前に瀬戸内寂聴さんと日野原重明さんの対談を聞きましたが、非常におもしろいと思ったのは、日野原重明さんが、あの世に行ったときに閻魔様が魂のめかたを量ると、天秤に

かけて重さがわかると、現世にいたときに、どれだけ人のために役立ったかということがわかるとの話をしていました。皆さんがそうした活動をしていることに対し、私は本当に感心していますし、今日はいろんな話を聞かせていただければありがたいと思いますので、よろしくをお願いします。

●事務局

ありがとうございました。それではこの後の進行につきましては、本会議を主宰します市長よりお願いいたします。

●市長

それでは意見交換会と言うことで、私の教育に対する思いを述べて下さいとなっていますが、私がいつも話をするのは、人生は縦軸と横軸があると、縦軸とは誠実さとか忍耐、明朗だとか礼儀正しさとか、人が何百年経っても変わらない、その生き方がベースだと、そのことを私は思っています。自分がやれるかどうかは別として、そのことを心掛けています。横軸と言うのは、常にスピード感を持って対応できるかどうかと、いろんな知識を持って時代の流れにいかにかスピーディーに対応できるかと言うこと、どれだけネットワークを持っているかとか、そのことが大事なことだと思っています。

教育と言うのは、縦軸をベースにしながらか横軸の行動がいかにか出来るかと、私が感銘を受けたのは、脇本城跡の話を聞いた時にある先生が、脇本城は全国で5本の指に入る中世の名城だと、蝦夷千島まで交易があったと言う話をして、歴史を現在に生かすことが大事だと言うことでした。教育と言うのは、そうしたことを生かしていけるか、そのことをやれるかが大事だと思っています。それと似たようなことで、「愚者は体験に学び賢者は歴史に学ぶ」という言葉もありますし、私の先輩のラグビーをやっていた進藤さんという人が、社長になって

秋田に何回も講演に来ていますが、ラグビーと言うのは人間性の陶冶とうやだろうと、それだけ教育と言うのは大事なことだと思っています。いかにかそのことをやって行けるか、そのことを子供たちに伝えて行けるかが大事だと思っています。話にまとまりがないですが、あとはCSについて私は、地域おこしの観点から非常に大事だと思っています。昔の小学校、中学校、特に小学校と言うのは地域の学校だけでなく、コミュニティーの中心でありました。おそらくPTA会長は地域の名士になって、学校教育にいろいろ関わっていたと思います。20年くらい前に峰浜小学校へ行った時に、当時の村長が案内してくれて、この学校はオープン教育だと、複式学級だから廊下と教室がオープンになっていると、それだけではなく地域にもオープンだと。工作は大工の棟梁が教えてくれるし、俳句と短歌は寺の住職が教えてくれると、そうした話を聞いて私は感心したことがありました。それと村長が村に花を植えるということで、全戸に花を配ったそうでした。なぜかと言うと故郷を忘れないためにやることでした。地域に住んでいる人たちが愛郷心があって、行事等にきちっと関わって行ければ、故郷のことを一生忘れないと言うことだと思っています。男鹿はナマハゲなどもあることから、一番良い環境にあるので、そうしたことを進めて行きたいと思っています。CSに

非常に期待しています。子供たちが今一生懸命ゴミの処理問題について関わってくれています。子供たちの一生懸命さが親にも伝わって行くと思っています。親たちが喜んで生きている姿を見て、子供達が故郷を忘れずに帰って来ることを期待しています。

生涯スポーツについては、男鹿は国保や介護保険も高く、全県1位くらいのレベルにあります。その改善のためには、健康づくりに取り組もうということで、現在、チャレンジデーを生涯学習課で中心に取り組んでいますが、担当課だけではなく全庁で取り組むようにということで、そのことも浸透してきています。

また、一つのことに打ち込んで行くということで芸術、文化は非常に大事だと思っています。そのことを極めようとするのが、健康の秘訣、生き甲斐、やり甲斐に繋がって行くものだと思います。

話が教育のことから外れますが、皆さんもいろいろな方と接する機会があると思うので、行政課題として心の隅に入れておいてもらいたいのは、ふるさと納税のことを今、一生懸命やりたいと思っています。予算査定を一生懸命やっていますが、お金がないという話が多い状況です。経費の削減、無駄を省くのは大事ですが、「出ざるを制し入るを量る」ことが大事で、男鹿に良いものがあると言うことを全職員と市民全員がやれば良いなと思っています。また、道の駅が「オガレ」に決まり良い名前を選んでくれたと思っています。

JRが男鹿駅を移転することと連動して、いろいろな可能性が広がると思っています。

また、まちづくりをもう一度考えて行きたいと思っています。地域の中では、施設が整備されると自分の商売が駄目になるとの話をしている人もいるようですが、私は逆だと思います。道の駅では他にもっと良い魚屋さんがあるとか、もっと良いレストランがあることなどを紹介します。人が市内を回っていくのは間違いないので、そのことをお願いして協力してもらいたいと、自分たちで何をやれば人が来てくれるかを考えてほしいと言うことを話しています。

駅舎について、男鹿の良さが出てないと言われていますが、私は案外良いものが出来てきたと思っています。この後、教育の話に的を絞って、何でも話してください。

●市長

今までの中で、皆さん何かいろいろな感じていることを話してください。意見交換なので何でも結構です。

●目黒委員

CSは2年目ということで、まだスタートしたばかりなので結果が出るには時間が必要かと思いますが、この先振り返りながら反省して、それを考慮して行く形になって行くと思います。

昨年も話が出ましたが、防災をCSの中に取り入れて行くのが良いのではと思います。防災となれば誰でも関心を持っており、参加する方が多くなると思うし、それを学校と地域だけでなく、行政がどのような形で参加するかについて、市長の考えを伺いたいと思います

●市長

縦割りの行政を横割りにして行かないといけないと思っており、防災についても学校と地域だけでなく行政も関わって行く話は良いことだと思います。

防災をやることによって、地域の絆が強まって行くと、男鹿が一番自主防災組織が組織されているので、それらについては自慢をしても良いと思っています。

●角崎委員

教育大綱について、平成 27 年 5 月に前市長が策定していますが、市長が替わったこともあり、市長の思いなどもあるので、新市長の名前で教育大綱を策定すべきだと私は思っていますので、できればそれを検討していただきたいと。新しい市長名で出すのがよいと思っています。

●市長

そのことについては、教育委員会からも話をされており、時代とともに変わっていくことがあるから、常に見直しはかけて行くべきだと思っています。行政の継続性も大事だと思っていますが、大綱について見直しして行くように検討して行きますので、関心を持ってご意見等をお願いします。

●安田委員

人数の少ない学校と多い学校との学力等の差はあるのでしょうか。

●教育長

年によって良かったり、そうでなかったりの差がありますが、特に小規模校だから良いとか、人数の多い学校だから良いといった差異はない状況です。人数の規模に見合った特色を出す教育、少人数であれば一人ひとりに応じた教育と言うことで、学校ごとの特色を出した形での児童生徒への接し方で、そうした流れで行っています。

●安田委員

統合した関係で、地域に一人だけの児童生徒しかいない場合の交通手段は上手く行っているのでしょうか。特に、北部の地域は遠いので親が送迎しているみたいですが、スクールバスもあるのはわかりますが、どのような状況でしょうか。

●教育長

統合した学校については、スクールバスの運行により登下校の安全確保をしていますが、今年、ある地区で一人小学校に入学した児童がおり、そのためにタクシーを運行させるか議論がありましたが、保護者の就業場所が学校に近いことから、保護者が送迎しています。また、特に困ったというような相談もありません。

●市長

別の話しですが、男鹿駅に観光客が来てGAOに行きたくても交通手段がないと、そうしたことも困っています。教育のための交通だけでなく、買い物や通院などのための交通や観光も併せて考えていかないといけない。なかなか難しい問題ですが、どうにかしないと大変だということで知恵を出し合っているところです。スクールバスを運行していても朝と晩しか使っていないと思うので、規制緩和して特区にしてやれないかとか、そうしたことは考えていかないといけないと思っています。

●安田委員

スクールバスの件は、運行していても乗らない児童生徒もいると思いますが、まずは不自由はしていないということで良かったと思います。

●市長

一人であろうが何らかの対応をしていかないと駄目だから、みんなで知恵を出し合ってや
って行くことだと思います。

●角崎委員

帰りはどうしているんですか。

●教育長

児童クラブに行っており、保護者の仕事が終わってから一緒に帰宅しています。

●目黒委員

教育とは離れて観光のことですが、朝昼晩と 3 本くらい男鹿半島をぐるっと循環しながら、
学校でも活用できるようなバスがあれば良いなど、男鹿駅でも乗ればどこかに行けて、
またそのバスに乗れば元に戻って来れるようなものがあれば良いと思います。誰かにお願い
して予約するようものは継続できないと思います。予算もかかるし大変でしょうが、1 日
に数本でも 1 周できるような乗り物があれば、観光客も安心して来れると思いますかど
うでしょうか。

●市長

そのことは本当にやりたいと思っています。観光客も地域の人と一緒にバスに乗りしたり
するのも楽しみだと言う人もいます。JR と連携していくことで、ここ 1、2 年でいろんな
ことをやろうと話していますが、その中の大きな問題は 2 次アクセスです。男鹿駅からど
うやって人を運ぶかなので、そのことを観光客だけでなく、生活交通と結び付けて行くと、
目黒委員が言ったように、朝と晩だけでも回るようなものがあれば良いと思います。ただ、
男鹿は地理的な条件等もあってなかなか難しい面もあります。今数字は忘れましたが市から
も多くの補助金を出してバスが運行していますが、規制緩和などをやれば可能性は出てく
ると思います。

私も市内 9 カ所の地域の方々といろんな意見交換をしていて、やはり移動の足がなくて
困ると言われているので、そこは例えば地域の人たちで乗り合って行けるようなものがあ
れば良いと思っています。確か京丹後市だったと思いますが、UBER（ウーバー）といった
アメリカの仕組みを利用して、スマホがなければ駄目ですが、予約して地域の人たちが登録
して、安価に乗り合っているような方法もあるようです。

●吉田委員

教育からはずれるかもしれませんが、私の思っていることは、男鹿に来て観光地へ向かう
足がなくて不便だと思います。男鹿駅に降りてレンタカーがあれば便利ですがレンタカーの
店舗もなかったり、自転車を活用した観光の計画をこれから進めていくような話がありま
すが、男鹿にいつでもしっかりした修理等ができる大きな自転車店も必要だと思います。また、
そうした店舗で各観光場所にレンタサイクルを設置するなどして観光面の充実が図れば
良いと感じています。そのほか、中学校に通学するにあたって、ちゃんとした自転車店がな
いと修理をするにしてもままならないので、専門店がないのは不便に感じています。

ほかには、男鹿市に 24 時間の保育園があると便利だと思います。男鹿へ進出してる企業
はコンビニや介護施設が多いですが、その場合、夜勤帯の従業員の雇用を求めています。働

きたいと思っている方でも、子供の預け先がない事情から働けず、企業側も困っている状況だと伺っています。そうした時間帯に女性の方が働けるよう 24 時間の保育園が一つはあっても良いと思います。その得た収入で、子供たちの部活動や学習に掛かる費用に充てられるようになれば良いと思っています。

また、男鹿に来客された方に、丁度良い時期のお土産を贈ることができないので、季節毎に男鹿の旬の物産が送れるような商品カタログがあっても良いと思います。

●市長

サイクリングについては、なまはげライドに参加してみて、全国から集まって来る参加者が非常にユニークな方が多かったです。400 人くらい参加していたと思います。参加した方々は、サイクリングしながら男鹿のことをスマホで情報発信をしてくれていました。そのことも進めて行きたいし、今 8 カ所位に県の補助金でサイクリングスタンドも設置しました。国交省でもサイクリングの窓口の課が出来て、男鹿でも一生懸命取り組みたいと思っていますが、道の駅と J R 男鹿駅との連動でいろんなことを期待しています。市の方で売り込んで行きたいと思っています。行政の仕事は、いろいろなこうしたことをやれば良いということテーブルに上げて、取り組もうとしている人に対してお金は出せないが、事務的な支援をして行くということだと思っています。

お土産のことについても、急速冷凍設備ができれば、いろんな商品開発ができるので品数が増えると期待しています。

24 時間保育のことについては、吉田委員には苦情等が来ているかもしれませんが、私の方までは来ていない状況です。ただ、この前 1 件だけ土曜、日曜の保育園を開いてほしいとの話がありました。やはり結構なコストがかかることでもあり、少人数の場合でも市の持ち出しが多いと思います。本当は地域で何とかみんなで世話をしていくようなシステムとか、知恵を出し合いながら対応して行かないと大変ではないかと思っています。

●教育長

地域の方々と一緒になって、子供達を昼や夕方に世話をするといい N P O とかボランティアなど、組織的な協力のもとで進めて行くシステムをつくりことで、可能性は広がるのではないかと思います。

●市長

今の男鹿を動かしているのは 70 代の人たちですが、地域のため社会のために貢献しているというこの生き甲斐を持っていただいて、頑張っていたきたいと思っています。

市では、今後機構改革をしますが、その時にボランティア活動や N P O 等も活性化できるようなこと、健康寿命が延びたりとか、生涯学習につながっていくとか、そうした仕組みを作って行きたいと思っています。

コンビニについては、全国画一的なものはどうかなと思っています、もっと景観に配慮したデザインとかにした方が良いのではとも思っています。男鹿は半島なので、そうしたことを生かした、特区的なおもしろいことができるのではと思っています。

●目黒委員

C S については、学校の負担が大きいようであり、地域から数名コーディネーター関係の

方を決めて、バランスを取りながら子供達、学校を中心にして将来のために育てて行くような形を明確にして、進めておいた方が良いのかなと思いますけどでしょうか。

●市長

CSの良さは、学校の先生が社会性を持つということも大きいと私は思います。人間性が第一だと、そのためには地域のいろいろな人たちと付き合っ、地域と交わって行くことは非常に大事な事だと思っています。目黒委員が言うように、実際には先生たちも大変だと思います。事務的な手間とか、今一生懸命やってもらっているゴミの減量化とかありますが、それらの対応も大変だと思います。学校と教育委員会、公民館等ときちっと連携を取っていくことが大事だと思うし、そうしたことで問題を解決していくべきと思っています。

私が思うのは、学校の教師のためにもCSは大事だなと、教師が学校の外側と交わって行くことも大事だと思っています。

●教育長

学校の負担軽減と言う意味でのコーディネーターの配置だと思いますが、学校によっては運営協議会の委員からコーディネーター的な役割を担ってもらっている面がいくつかありますし、そうした方がいなくて教頭先生が窓口になっている学校もあります。理想としては、学校の空き教室にコーディネーターの部屋を置いて、いつでも学校運営協議会の方から来てもらって、運営協議会の方の中でコーディネーター的な役割を担ってもらえれば一番良いかなと思います。公民館との連携も必要になりますが、いろんな人から学校に携わってもらうことによって学校に新しい風が流れ込んで来ますので、そうした中でこの後もCSをもっと地域に定着させていければと思っています。

●安田委員

以前から行っていた、ふるさと先生などで学校に携わっていた方たちが、今のCSの学校運営協議会に関わっていると思う。メンバー的に同じような方たちの顔ぶれとなっているようなので、もうちょっと違った方たちが参加できるようになれば良いと思っています。まだまだこれからだと思っています。

●市長

私は、船一小のクジラ学校物語を見て感動しました。これだけ利他の精神があるところだから、やっぱり地域が優先だろうと、自分のことは二の次で、地域が良くなって初めて自分たちが良くなるのだから、そうしたことから道の駅が必要だという話をしたこともあります。言いたいのはCSや利他の精神は、そうしたことを原点に植え付けて行けば、いろんなことが上手く行くのではないかと考えています。双六地区での災害の際も地域の人たちが総出で漁港の片付けなどをしていたこともありました。若美地区の全地域挙げての清掃なども素晴らしいことだと思うので、そうした良いことを取り上げながら、地域のために継続して行きたいと思っています。そのための一つの切り口がCSであると私は考えています。

●安田委員

継続して行けば形が変わって行って、うまく外部からも入ってきて広がりが出てくると思います。

●市長

私が職員に言っているのは、やる気のある地域、会社、市民などを応援し、そして補助金を交付したら成功するまで一緒にやっというスタンスを話しています。地域づくりでも成功事例を作って、一つ良いのができれば必ず良い影響を及ぼしていくので、そうしたことを何とかやって行きたいなと思っています。

安全寺地区でもケーブルテレビなど通して東急沿線の顧客から 6 千俵の米の注文を受けています。地域を丸ごと売るということで、米だけでなく地区のナマハゲもおもしろいし、いろいろな産物もあって、そこに人が集まって来ることなどに繋がって行くと思う。CSからははずれてしまったが、いろいろなことに関係があるということを知っていてほしいと思います。

安田委員)

里山づくりについて、結局はコーディネーターの方がいてリードしてくれれば上手くいくとは思っているが、なかなかこれまでの集まりだけでは、難しいことが見えます。

市長)

安全寺地区については、ワークショップが上手いというか、人の話を聞いて自分の意見も出して、文章を書いたり絵を描くのが得意な人を探しています。そうした地域に対する思いを持っている人達が多くいるから、コーディネートする人がいれば良いなと思っています。

もしかすれば、CSでもそうした人が必要なのかもしれないと思う、学校の教師だけでは足りないのかもしれないと思う。

安田委員)

安全寺地区の場合は、最初、県から来てもらって方向性が出て進んでいるので、学校に当てはめても同じような感じの役割の人がいれば良いかなとは思っています。

教育長)

どこの学校でも課題になっていますが、CSに協力する人たちが前から同じ人だということで、なかなか広がっていけないと言う意見が出されています。そこをどう工夫していくかということと、地域の方がもっと地域づくりに対する発言や考え方を出示てもらえれば、学校も動きやすいのではないかと思います。

安田委員)

そこが難しいと思う。

市長)

今の時代は継続性と言うことが言われており、若い人が入って来ないと地域が持続していかないと、これからは常にそうした視点で考えていかないと駄目だと思っています。

昨日の新聞報道にもありましたが、文化財の脇本城やナマハゲでも、もっと観光の要素を生かして、一般行政に入れて行くようなスタンスが多くなってきています。世の中も変わってきているので、継続性を持った視点で行かないといけないと思っています。良いまちづくり、地域づくりができれば、移住定住で若者が来てくれる可能性は十分にあると思っています。

●角崎委員

C Sを始めてまだ2年目ですので、私は良い方に行っていると思います。今は、先になってコーディネーターの役割をやっているのが学校長だと思う。学校の中でも今は校長と教頭が忙しく、一般の教師はC Sの場に入っていないと思いますが、C Sをやっていく過程の中で、やむを得ないと言う気がしています。これを職員に行わせると職員の負担が増えるので、今のところは校長と教頭に頑張ってもらって、そのうちに形が出来てくると私は思っています。そうすると先生たちも自然にC Sに入って来るし、地域の人もどんどん入ってくるのではないかと。まずは校長、教頭に頑張ってもらって、地域の人を学校に引っ張りこんで、巻き込んでいく時でないかなと、そうすると地域の中でしっかりした人が出てきて、まとめていくのではないかと私は思っています。

何とかこのC Sを成功させて、とにかく学校が活性化して地域も活性化していく方向に進んでほしいと思っています。

私が良いと思うのは、学習支援で地域の方がかなり助けていることであり、昔もやっていたと言うが、参加率はもっと増えている感じがしている。そうしたことをどんどんやっていると形が出来ていくと思うので、市長からもバックアップしてもらって、C Sを成功させてもらいたいと思います。

●市長

私が思っていることは、市役所でもトップが営業しないと部下が動かないと思う。県の部長にも言われたが、市長が県庁に来ないと部下が来るわけではないと、お互い情報交換をしようという話をしています。それは地域でも同じことで、教育長には、校長、教頭に地域の人と交わってくれるように橋渡ししてもらいたいし、また、市の職員には、資料を完成する前に相談に来てほしいと、100パーセントで資料を完成することに満足するのではなく、やりながら変えて行こうと、そうしたスタンスが今の行政でやっていくべきことだと思います。本日は本当にありがとうございました。